

ホタルの会（富山県）

活動地域

私は富山県富山市からやってまいりました。ホタルの会の会長をしております亀谷です。どうぞよろしくお願い致します。私たちは、街角の一隅を照らす犯罪抑止の一灯になりたいという願いで集まった武道家、少林寺拳法や空手の有段者で結成している防犯パトロール隊です。私も武道 10 段であります。少林寺拳法 2 段、空手 2 段、剣道 2 段、柔道初段、あとは口先 3 段、合わせて 10 段です。もちろん得意技は口先 3 段です。



私たちホタルの会の活動地域についてご紹介致します。ご覧のとおり富山県のほぼ中央に位置し、豊富な魚介類を育む富山湾は蟹気楼でも有名です。東には雄大な 3,000 メーター級の立山連峰、西には栗嵐で有名な梨畑が広がった丘陵地帯が連なっています。南には豊かな田園風景と森林が広がっています。

全国的にはくすりのまち、越中富山の売薬さんで知られています。子供のころは、売薬

さんが持ってこられる紙風船で遊んだことが懐かしい思い出になっていますけれども、皆さん方も同じ思い出をお持ちのことと思います。

9 月には、八尾の越中おわら風の盆の季節になります。全国から約 25 万人の観光客でにぎわいます。そのほか、4 月のチンドンコンクール、通称チンドンまつりのほか、私たちの会が結成されるきっかけとなった山王まつりなどがあります。

平成 27 年には待望の北陸新幹線が開業しますので、より多くの方が来県され、富山の魅力を感じていただきたいと願っています。

団体発足の経緯

それでは、ホタルの会の発足経緯についてお話します。

富山市の中心部、山王町にある日枝神社の例大祭を「山王まつり」、富山の人たちは親しみを込めて「山王さん」と呼んでいます、県内最大の祭礼で約 600 件の露店が並び、20 数万人の参拝者でにぎわいます。

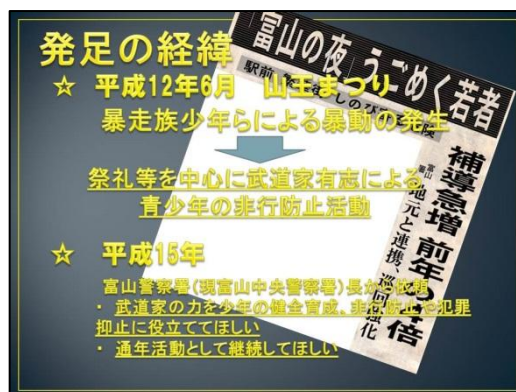
ところで皆さんは、富山県の県民性といえますと、私のようにまじめでおとなしく、口下手だというイメージをお持ちかと思いますが、しかしいざというときには、エネルギーが一気に爆発するようでございます。皆さんも学校の教科書で学ばれたように、大正 7 年の米騒動発祥地であります。また昭和 47 年には、富山駅前を中心に 100 台以上の若者の車が暴走行為を繰り返した、いわゆるサーキット族の発祥地であり、これが全国に波及し、大きな社会問題となりました。

そして平成 12 年、この山王まつりに集まった暴走族少年と、一部群衆を巻き込んだ暴動が発生したことをきっかけに、富山市内の武道家の有志が集まって、祭礼を中心に青少年の非行防止活動を開始しました。当時は、暴走族が集まるようなお祭りの時に実行委員会にボランティアとして参加し、お祭りが安全に進行できるように、清掃活動や声掛け活動を実施していました。

そのような活動を続けていた平成 15 年に、当時の富山警察署、現在は富山中央警察署となっておりますが、その署長から「武道家の力を少年の健全育成、非行防止や犯罪防止に役立ててほしい。通年活動として継続してほしい」との依頼を受けたわけであります。

警察署長の依頼を受けたことで、より広く空手、少林寺拳法、合気道の武道家に声掛けを行い、賛同した多方面の皆さんが集まりました。

私たちは、街角の一隅を照らす犯罪抑止の一灯になりたいという願いを込めて、「ホタルの会」を結成しました。これが私たちの会のロゴマークです。名前のとおり、ホタルをモチーフにしたものです。初代会長は、森富山市長さんでした。私が 2 代目になります。



活動の概要

皆様もご存じのとおり、かつてニューヨーク市長が唱えました「割れ窓理論」では、たばこの吸い殻や空き缶などのごみの無い、手入れの行き届いた地域には、犯罪企図者は寄り付かないと言われています。

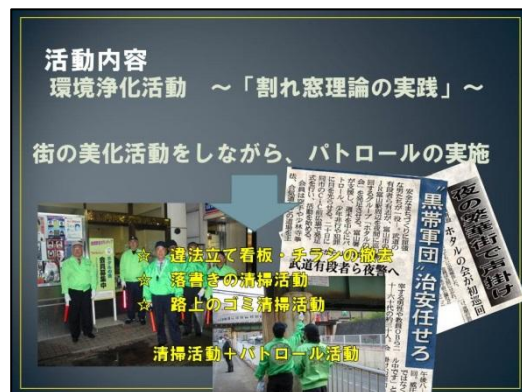
そこで会の方針として、ＪＲ富山駅周辺を中心とした繁華街の清掃活動による美化活動と、夜間パトロール活動を組み合わせた活動を実施することといたしました。

当時の富山駅では、酔っぱらいによるけんかが絶えなく、またピンクチラシが公衆電話や電柱に貼られるなど、環境的には非常に悪い状態であったこと、商店のシャッターなどに落書きされる事案が多かったことから、このような活動を考えました。

これまで実施してきた活動内容ですが、私たちは子供たちと一緒に路上に捨てられているたばこの吸い殻や空き缶を拾ったり、違法な立て看板・チラシを撤去したり、信号制御機や電気の変圧器にスプレーなどで書かれた落書きを洗剤を付けたタオルで消したりしていました。

また、初代会長が富山市長であったことから、富山市から会員一人一人が美化推進巡視員に委嘱されており、通常のパトロールにおける美化活動に加えて、富山市が年４回実施している「富山市まちの美化推進デー」に、メンバーの道場に通う子供たちも誘って参加しています。また武道に限らず、少年野球チームと一緒に清掃活動を行ったりしています。当然ではありますが、富山市や警察と連携、協力して、各種出発式や研修会に参加しています。

結成から早いもので１０年が経っておりますが、現在のホタルの会は、会員数４３名、平均年齢５７歳です。パトロール活動人員は７名から１０名、ＪＲ富山駅周辺で隔週金・土曜日午後８時から午後１０時、ホタルの会のロゴマーク入りの黄色いジャンパーを着用し、装備では照明具、市指定のごみ袋、軍手、筆記用具。これらを持って活動しています。



活動の効果と今後の課題

私たちの活動開始のきっかけとなった祭礼では、現在、暴走族の姿を見かけることはなくなりました。街角で落書きを見かけることも少なくなりました。活動を始めたころは、少し歩いただけでゴミ袋がいっぱいになり、途中のコンビニに捨てさせてもらっていました。しかし現在は、県外から来られた方がJR富山駅周辺にたばこの吸い殻や空き缶などのごみ捨てがない、これに非常に感心されているとお話も聞きます。

また夜間パトロール中にすれ違う青少年に「こんばんは」と声を掛けると、「ごくろうさんです」と元気に答えてくれたり、無灯火の自転車を注意すると、「分かりました」などと返事をしたり、コンビニ前でたむろしている茶髪の一見ヤンキー風の若者も、意外と素直に言うことを聞いてくれます。意外と素直な面もあるんだな、とこちらも嬉しくなることがあります。

これらは、市民全体の取り組みによる成果であり、自分たちもその一翼を担えたのではないかと思います。

私たちだけで目的を達成したわけではありませんが、活動を通じて得たもの、それは、自分たちの街の安全と美化は自分たちで守る、子供の健全育成は郷土の育成に通じるという信念であり、ホタルの会の結成理念とともに、現在の活動を継続しておりますけれども、それらを未来につなげていくことも、私たちの役割と考えております。

今後の課題は、会員の平均年齢は57歳と他の防犯パトロール隊と比べると若いのですが、逆に全員が有職者で働いているということから、平日の日中に行われるような行事には仕事を休んで参加するしかないこと、そして10年後にはわれわれも高齢者となってくるため、後継者の育成という問題が生じてきます

しかし私たちは、一緒に武道、美化活動で汗を流した子供たちが、いつの日か街角の一隅を照らすホタルの後継者となってくれることを心待ちにしております。ご清聴ありがとうございました。

信念を未来につなぐ

自分たちのまちの安全と美化は
自分たちで守る

子どもの健全育成は郷土の
育成に通じる

今後の課題

会員は全て有職者であるがため

日中の活動が困難
10年後の後継者

教え子たちに期待

街角を一隅を照らすホタルとして

質疑応答

●質問 街をきれいにすることが、犯罪を減らすことにつながるのではないかとということで活動を展開し、道場に通うお子さんも参加しておられると伺ったところですが、お子さんが活動に参加し、その後の変化、成長といったものはありましたか？

○回答 最近の子供たちは少子化で一人っ子が多く、割と駄々っ子が多いのではないかと思います。そういう子であっても、私たちと一緒にごみ拾いなどをしておりますと、終わったあとに「気持ち良かった」と言ってくれます。こういうことを何回も重ねますと、ごみなどを捨ててはいけないというルールを守ることにつながっていき、それがまた自分の住んでいる街を愛する気持ちになってくれると感じます。こういう活動は子供たちにとってもいいことだなと感じております。